

行政が
バイオニアって
素敵かも

五つ星の
付くような町、
目指して見ても
いいかも



行政関係の皆さんに伝えたいこと

行政という分野は、普段は何事もないことが求められ、それを支えた功績が表に出ることも、直接承認されることもあまりない縁の下での力持ちであると同時に、あずかり知らないところで生じて、表に現われてくる全ての社会的課題に責任と解決を求められ、ときには非難される立場です。

でもそれは、社会全体の大きな期待の表れでもあります。そのような中、貧困問題、子育て支援、被災地復興、高齢社会対策等、これまでにない大きな課題が目白押しという時代に来ています。制度や組織の壁や全く新しい展開に立場を取って立ち向かい、社会的課題の根本的解決を意図に外部(NPO+企業+3省等)を巻き込み、その結果として、皆さんが支えている社会そのものに参加すること、更には、その存在価値と影響を与えることを甲斐に感じながら人が成長する人財開発が行われることが行政の場に必要です。このパラダイムシフトのセンスがそこに役立つことをお伝えします。

CTN統括責任者 岸 英光

Hidemitsu Kishi

パラダイムシフトで可能を開き結果を創る

バイタリティサイクルを回して軽やかな行動と承認を

2025年問題を公私のパートナーシップで
新たなコミュニティ創出のチャンスに

日本の未来には、公務員のパラダイムシフトが大きく貢献します。全国で91万人の地方公務員(一般行政)、34万人の国家公務員(一般職)は日本最大企業の社員数の約3倍。これまでの前例を軽やかに超え、市民との信頼に基づいたパートナーシップを創作できたとしたら、公務員は、正にこれからの社会において圧倒的な存在です。

コミュニケーション トレーニング ネットワーク

CTN
ADMINISTRATION
guide
行政編



行政のパートナーとして
産官民学の枠を超えた事業を实践中!
NPO代表 横山です。

東京でNPO法人として、産官民学の力を活かし合いながら、行政のパートナーとして活動しています。関わる組織や人との「パートナーシップ」=共に結果に向かう対等な関係性を構築することで、創り出すやり甲斐と成果を分かち合える喜びを体験しています。ここに至るにはパラダイムシフトがありました。

受注を受ける立場に留まり、時に失敗を恐れて「検討=行動」に終結してしまうことも…。

それぞれの立場と資産を活かしきるには…行政とNPOのこれからの地域づくりに向けた『共創』への転換

積極的なファンドレイジングや広域の事業展開での貢献へ。

「市民のためには市の中で完結しなくては」という思い込みが…

この枠が結果を小さくしていないか…日本各地とのパートナーシップがあつていいかも!!

「日本海側の行政や、東北の市や、社会福祉協議会などの事業を共に創り、その成果を地元で活かすことへ!



市の農業まつりに、東北への応援職員の頼りからNPOとして出店、地元の大学生や市民の協力で東北の杜鰈を2日間で900個販売!売り上げを東北へのクリスマスプレゼントにしました。
左から、NPO法人職員の横山、地元大学生、行政の職員です。

子どもたちが
いつか思い出す
大人として、
行政マンやってみても
いいかも

前例がなくても
いいかも

北海道連続講座の卒業生である札幌市の職員有志によって『社会の源泉である公務員(札幌市職員)が、パラダイム(価値観の枠組み)を突破し、いきいきと甲斐のある仕事・プライベート・人生を手に入れ、札幌や北海道を元気にする』という

「わくわく市役所実行委員会」とは? 行政がセンスを取り入れ続ける街

北海道連続講座主催 金澤

意図のもと、「わくわく市役所実行委員会」を結成されました。現在は、行政の各機関から研修のご依頼や、講座で学んだセンスの活かし方についてのご質問・ご相談などもいただくようになりました。まさに、仕事やプライベート、人生に、「機能するコミュニケーションセンス」をご活用いただける機会とご縁が続いています。

「承認～コミュニケーションから創りだせる未来」を受講して反抗期の息子とのかかわり方を思い起こしながらお話を伺いました。親子の関わり、職場での人間関係を良好にするための多くのヒントをいただくことができました。
札幌市職員



現役行政マンが講座について語る

地方公務員 山崎 賢治氏

仙台で開催されている連続講座に体験参加しました。たった一度かつ初めての参加にもかかわらず、組織内で重要なコミュニケーションやセルフコントロールの充実・改善に役立つ要素を沢山得ることができました。参加しながら、若手職員の育成等に非常に役に立つ手応えを感じていました。
私たち公務員は、決まった予算や法規に基づき、定常的な対応を求められる仕事柄、「○○でなくてはならない」というパラダイムに捕らわれ思考が硬直化しやすいことから、絶えず変化を求められる今の時代にあって、多くの職員が基礎的な素養としてこの考え方を身につけることで、創造的な職場を創っていくことができるように捉えました。

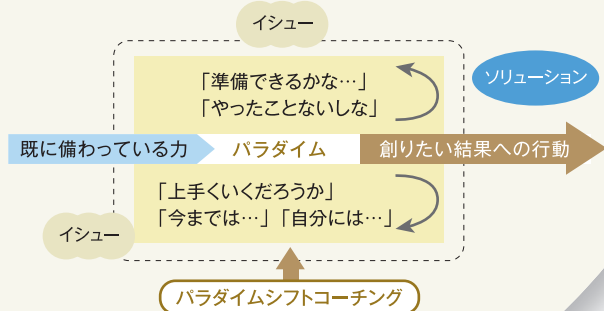


公務員の皆様への感謝と
立場が開く可能
社会福祉士 ケアマネジャーの佐藤です。

東日本大震災後、私は福島に暮らす家族の避難に奔走していました。そんな中、市役所の窓口で相談したことが翌日には制度を変えて実現し、透析をする祖父の命を守ることができました。未曾有の出来事の中で発揮された英知や判断力・瞬発力、それによる行動、それらが創り出した結果は、人が持ち合わせている力や優しさの本質によるものなのだと思います。しかし、イシュー度が低いと感じてしまいがちな日々、または、立場を取ることに戸惑うような新たな課題を前にしたとき、人や組織のパラダイムが価値ある行動や力の発揮を停滞させてしまうことも…。実はこうしたバイタリティが回らない時間は、人を消耗させたり、洞察力や観察力を鈍らせて、人や社会が扱うことを見誤らせてしまう状況をもたらすことがあります。一方で、誰もが持つパラダイム(価値観の枠組み)を突破し、本来の力を活かし、可能を開いていくことに、このコミュニケーションのセンスが活かされることを、行政に関わるCTNの講師としても、実際に共に感じています。



福祉行政職員 組織マネジメント研修



「コーチング／パラダイムシフト」の第一人者である岸英光氏を講師に招き、市職員が実生活で使えるコミュニケーション講座、コーチング講座を開催。スタートから2015年までの3年間で8回を数えました。

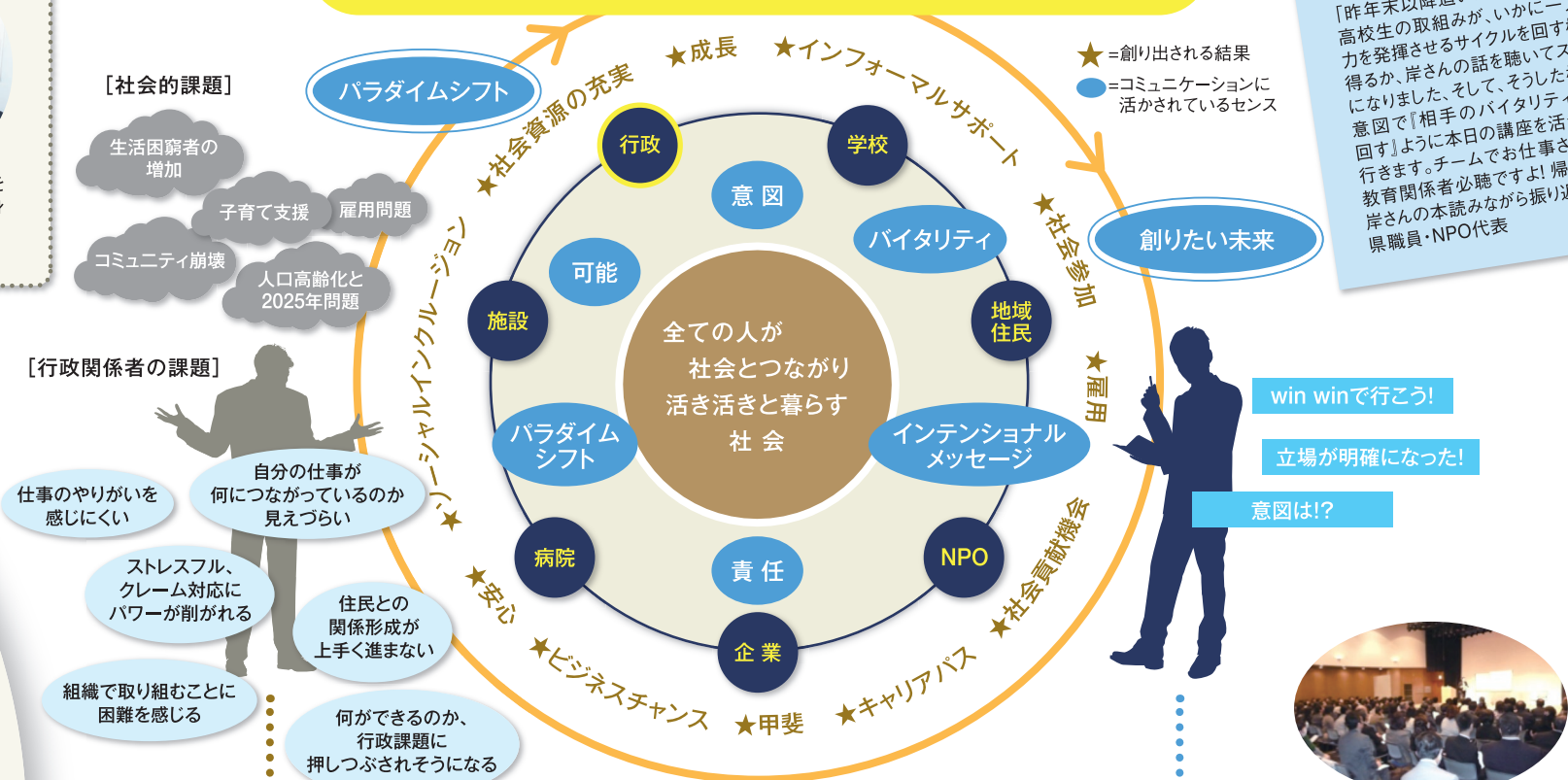


講座に参加したこと、CTNの皆様との出会いで、自分に潜んでいて見えなかった自分の想いが見えてきて、できない、無理、自分はまだまだ足りない、ではなく、やがて自分が現れた! その想いとは、「命をつなぐ、命が輝く心地よい居場所づくり」です。そして「おしゃべりサロン」を開催しました。その一環として、保健センター(保健 保健師)、子育て支援センター(福祉 保育士)とともに「赤ちゃんがやってくる!先輩パパママと話そう」を開催しました!
札幌 看護大学教員 渡邊由加利

「部署ごとに仕事をしていますが、共通の意図のもと一人ひとりがバイタリティを回して組織として取り組んでいきたい。そのためにインテンショナルメッセージを活かして実践していきます。」
市役所職員

活かされるコミュニケーションセンス

～組織・人との繋がりと参加へ・課題に取り組むプロセスで創り出す結果へ～



【行政関係者の課題】

- 自分の仕事が無に繋がっているのか見えずらい
- 仕事のやりがいを感じにくい
- ストレスフル、クレーム対応にパワーが削がれる
- 組織で取り組むことに困難を感じる
- 住民との関係形成が上手く進まない
- 何ができるのか、行政課題に押しつぶされそうになる

【行政組織の取り組みと依頼例】

- 自発的・創造的な人材育成と、新プロジェクトの立ち上げ・既存プロジェクトの発展のために
- 住民・外部団体・企業との関係形成・繋がりで展開される政策の実現に向けて
- 住民の主体的参加でパワフルな動きを引き出すために
- ソーシャルインクルージョンの実現・安心と活力ある福祉の町づくりに
- 一人ひとりの力を活かきするチーム形成に
- クレームをチャンスに変えられるセンスを
- 住民の真のニーズをキャッチできるケースワークのために

市民活動・ボランティア活動を展開する 市立病院ドクターがいます。

医師 小鷹 昌明氏



「必要だと感じたことをやっているだけで、私は行政や企業とのパイプ役、コーディネーターしているだけなんですけどね。なんか色々広がっちゃいましたね。」



CTN統括責任者 岸 英光氏&小鷹ドクターのコーチングセミナーより抜粋

1 南相馬の「社会的課題」

ポスト3.11 南相馬で何が起こったか?



2 イベントを企画しても男性の参加者は少ない。 そこで!南相馬市立病院の有志でチームホープを 立ち上げました!!「発動のきっかけは?」「必要だと 感じたから」

コミュニティの創出「Team HOHP」の立ち上げ
“外へ…街へ…”



お父さんたちの趣味・興味?

3 男性はプラモデルや帆船を作ったり した経緯があって、物づくりが好き、 没頭できる、手に馴染みやすいので は!とまずスタートさせたのは「男の 木工教室」



4 バイタリティサイクルが回る仕掛けを作った! ●おしゃべりをしなくてもそこにいられる ●自分の役割があって、人から頼られたり、自分の 作ったものが誰かの役に立つ。 ●そこに喜びや達成感があり、バイタリティが回るもの。

そのためには、コミットがあって
スキルアップしていく
チャレンジングさも欲しい。

職人さんに指導をお願いしよう!

仕掛け

- 街の復興お役立て木製品
- 公共施設に置かれるもの
- 共同でひとつのものを仕上げる
- プロの職人(全国建設労働組合総連原町)から
- 子供たちの支援になるようなものも

見える結果に甲斐を感じる

5 被災地に来て思っていること…

- 最初は、「自分が何とかしなければ…」などという、
気負ったことを考えていました。
- 最近は、自分が何かをするのではなく、もともと
この地にあるものに、進んで自分がコミットして、
いかにしたら一緒に楽しく過ごせるかということを
考えるようになりました。

私のパラダイムシフト

- いくつになってもチャレンジできました。
- 自分に垣根を作らず、何でもやってみることが
大切です。
- 経験してきたからできるのではなく、今、何が
必要で、どうしたらそれが実現できるかを考え
続け、変化に適応するからできるのです。

TOPIX

2013年no.842 岩波書店「世界」のページに、「仮の町」が開く可能性 住民票はふたつあってよい!というタイトルを見つけた。元公務員でその後大学に勤務された今井 照福島大学教授による執筆でした。少なくとも5年は帰還困難地域に区分された町の被災者が、避難先と避難元それぞれの地域社会で人々とのつながりを支えに生活する。これに対して、政策・制度で支援するための可能の一つとして、自治体のあり方がシフトした例と共に提言されたものでした。このタイトルそのものに、パラダイムシフトを感じました。

行政職員研修ご参加者の声

生活保護申請時の混乱した状態の住民が安心して自分のことを話することができたら、話しながら自らの混乱した状態を整理できることも、ワークで体験できた。心が軽くなった。

インテンショナル・メッセージを使っていたら、人生もっと楽に生きられるかも。
職場での上司への相談や、家族、後輩の指導、様々な場面で活かしていきたい。

様々な地域課題、新しい人材の育成、求められる改革等々と直面しているなかで、立場を同じくする者が一同に会して講座に参加できたことは、地域にとって本当によかったと思う。ますます団結して、密に会話して進めていきたい。

広域で展開される仕事が増えることに、不安を感じていたが、コミュニケーションで創り上げていけばいいんだと思った。

人が物事を適切に扱えなくなる状態があることに観点がなかった。相手がどんな状態で聴いているか、を把握しながら、伝わるように伝えることの大切さを知った。決められた仕事をやることの多い中で、住民サイドに立て大いに活かしたい。

Be(あり方)がどうであるかで、出てくる言葉が変わったことは、目からウロコだった。
自分は何のためにこの部署で仕事をしているかが分からなくなって、どうするか、何をするかDO(やり方)のみに終始していた。

これまでの自分の仕事、相手との関わり方、パラダイムだらけだったことに気づいた。
この枠を超えたら、どんなことが起こせるのか、ドキドキするけどやってみようと思った。

仕事のために参加したが、これは子育てにも活かせる！講座中、子どもとの関わりが浮かんできた。早速帰って活かしたい。

このセンスを知ったことが目からウロコだった。センスを活かしたコミュニケーションで、自分が悩んでいることを整理できることを掴めた。いつも助言が必要なものではないようだ。

自分が日頃やっていることの当たり前をもう一度疑ってもいいかもと感じた。
本当はもっと様々な方法があるかもしれないと感じた。

力づけ 成長を支えあう社会

人を存在させる コミュニケーション



岸 英光 きし ひでみつ
エグゼクティブコーチ
CTN統括責任者・
主席講師

「機能するコミュニケーションを日本の文化にする」これが、私のコミットメントです。

大仰に聞こえるかもしれませんが、きっかけは極めて個人的なことでした。

～次男が障がいを持って生まれ、いくら自分が守り続けたとしても、社会が弱い子ども達を疎外し傷付け、手を差し伸べることをしなければ、この子は幸せに生きてはいけなかもしれない～

障がいに限らず、人の持つ弱さが、怖さや危険につながる世界は

人間の創り出す文化的な世界とはとても言えません。

「人々が自分のことで精一杯で疲弊憔悴し勝ち負けに明け暮れている社会」ではなく、

「人々が生き生きと真剣に達成の笑顔と成長の涙で日々を暮らし、

お互いを思いやりながらしっかりと力付け成長を支え合う社会、そんな『愛』に溢れた社会」が必要です。

それが創られる最も重要な「場」は、人と人がつながりあう中であり、

そこに流れるコミュニケーションに人の存在が溢れ出し触発に満ちたものになったら、

きっと可能になるはずだと考えました。

そこで今は「コーチング」や「パラダイム」がこれにつながる効果的な分野だと考え展開しています。

そして、もっともっと機能するものに発展させていきます。

プロフィール

東京都出身。大学卒業後、企業にて企画・営業・開発を手がけると同時に、最新の各種コミュニケーション・能力開発などのトレーニングに参加。自らコーチされることを通して日本人に即したプログラムをオリジナルで構築。その後、人間関係や能力開発に関する様々な分野のセミナー・講演・研修・執筆活動を展開。対象は企業、教育、医療機関、自治体、一般参加者対象の講座など多方面にわたり、機能するコミュニケーションを日本の文化にするべく精力的に活動中。テレビ・雑誌・新聞でも取り上げられる。講演・講座・研修は、日経ビジネス「課長塾」※におけるメイン講師他、全国で年300回以上。

※「課長塾」とは、日経BP社が発行する経済・経営の総合誌「日経ビジネス」が主催するセミナー。主に企業経営者、ビジネスパーソンを対象にしたテーマで、各社で選ばれた人材が刺激し合い、高みを目指す集中プログラム。東京、大阪、名古屋、福岡等の大都市圏で開催中。

実績

【省庁】高等裁判所・農林水産省・第11管区海上保安庁・JP郵便局・近畿郵政公社 【都道府県】岩手県福祉行政職員・岩手県公立小中学校事務職員・愛知県庁・長野県庁 【広域】東京23区特別区合同研修所・埼玉県広域連合 【市区町村】北海道札幌市・東川町、東京都新宿区・港区・中央区・千代田区・杉並区・世田谷区・豊島区・東村山市他都内多数、埼玉県さいたま市・所沢市・入間市、千葉県千葉市、神奈川県横浜市・鎌倉市・平塚市、静岡県御殿場市・富士市、長崎県長崎市、沖縄県沖縄市・名護市等 【教育委員会等】函館市教育委員会・岩手県教育委員会・岩沼市教育委員会・日立市教育委員会・東京都教育庁・東京都教育委員会・中央区教育委員会・墨田区教育委員会・上尾市教育委員会・東京都教職員研修センター・埼玉県教育局・養老町教育委員会・船橋市教育委員会・茨木市教育委員会・阪南市教育委員会・貝塚市教育委員会・加古川市教育委員会・海南市教育委員会・福岡県教育委員会・久留米市教育委員会・大分県教育庁中津事務所・沖縄教育庁・沖縄県教育委員会・読谷村教育委員会・伊江村教育委員会 【選挙管理委員会】上尾市選挙管理委員会 【その他】埼玉県企業振興公社